2025 年度　第 53 回　伊藤熹朔賞　授賞作品、受賞者一覧（敬称略）

８月１日（土）に伊藤熹朔賞本選考会を行い、外部選考委員５名により「本賞」が決定いたしました。同日理事会を開催し「協会賞・特別賞」を決定いたしました。「新人賞」は、７月９日新人賞選考会を開催し、決定いたしました。。

【本賞】「もしもこの世が舞台なら、楽屋はどこにあるのだろう」
椙木　陽次・小濵　まほろ　（フジテレビジョン）

・大規模なスケールの坂道オープンセット椙と緻密なデザイン設計によるスタジオセットがエネルギッシュな 1980 年代渋谷の湿度と熱量を見事に再現し、舞台化された三谷ワールド特有の世界観を創出している。

【協会賞】「音楽の日 2025」　西出　衣織（TBS アクト）

・布素材を使用した無数のリボンによる放射線の広がりで表現された空間構成が、照明、電飾、カメラとの連携によって番組テーマである希望に満ちた空間を具現化し、番組演出に大きな役割を果たしている。

【協会賞】「有吉の世に出したい９割本」谷口　絵梨果（テレビ朝日クリエイト）

・コスト面や空間制限がある中、洗練された色彩計画と高低差を利用した空間レイアウトで創意工夫がなされたデザインが、コンパクトでありながら視覚的にも新鮮で上品な世界観を作り上げている。

【新人賞】安藤 帆南　（TBS アクト）

・豊かな感性と確かな技術による空間構成力に加え、貪欲な向上心と柔軟性で第一線の現場を支える姿は、次世代の映像業界全体を牽引できる存在として。

【特別賞】「三原康博」

・1961 年東京放送入社以来、代表作『ザ・ベストテン』をはじめ数々の番組制作に携わり、テレビ美術の発展に大きく寄与するとともに、退職後は、テレビ日本美術家協会 初代理事長として協会の礎を築くなど、故人の長年にわたる多大な貢献に対して。